

| | |
|--------|----------------|
| 議会受付番号 | 文書質問第9号 |
| 質問者 | 長嶋竜弘議員 |
| 答弁する者 | (経営企画部文化人権推進課) |

文書質問に対する答弁書

鎌倉市議会基本条例第7条第3項の規定に基づく文書質問第9号の質問について、次のとおり答弁いたします。

1 質問の内容

「女性が活躍できるまちかまくら」を目指して、別紙の「女性が活躍できるまちみのかも」のようなシンポジウムを企画して、市民の方から提案していただいた。

担当課もやる方向で考えてくれていたが、「政治的で実施が難しい」と言うよくわからない理由をつけて、開催できないとの回答をいただいたが、「政治的で実施が難しい」と言う理由が全くわからないので、わかるように説明いただきたい。

また、首長や議員などが鎌倉市の様々な行事に出席されているが、それは「政治的」では無いのか、何処が違うのか、明確な説明をお願いいたします。

また、国県の「女性が活躍できるように応援してゆく」と言う考え方に逆行するような判断を何故するのか良くわからない。

「女性が活躍するまち」をつくっていくには、政治家自らがリーダーシップを取り、進めていかないと形成できるものではない。だからこそ政府が動いて「女性活躍推進法」をつくり、黒岩知事も「かながわ女性の活躍応援団」を結成して別紙の「応援団行動宣言」までされたのではないかと思うが、市長は今回それと逆行した態度を取られたわけであるが、どの理由があってそういう態度をとられるのか、明確に働く女性の皆さんが納得できるようご回答頂きたい。

さらに、鎌倉市民にとって「日本国のFirst Ladyから話を聞ける大きなチャンス」を松尾市長が奪った事になりますが、「女性が活躍できるように応援してゆく」為のゲストとしてこれ以上の方は国内ではいらっしゃらないと言えるような方のシンポジウムを、「政治的」と言う良くわからない理由で断るのでしたら、市長として「女性が活躍できるまちかまくら」を構築してゆく為の具体的な対案を提示してください。

最後に、ご提案いただいた市民の方にはある会合の席では、前向きにやりましょうと答えられたと聞いていますが、何故裏返って出来ない事になったのか、ご提案いただいた市民の方に失礼だと思わないのか。明確な答えをお願いいたします。

2 質問の理由

女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）が平成27年8月

28日に国会で成立、神奈川県も黒岩知事を団長とした神奈川県にゆかりの深い企業のトップ10人によって「かながわ女性の活躍応援団」を結成して、平成27年11月5日の結成式で「応援団行動宣言」をして、女性が活躍できる体制を国県をあげて整えてきた。

そういった中で、誰もが「話を聞いてみたい」と思える「First Lady」による基調講演は、多くの鎌倉市民にとって話を聞ける大きなチャンスであり、その後の「女性が活躍できるまちかまくら」のまちづくりについても前進してゆく事が大変期待できるものである。

しかし、今回の「政治的」と言うよくわからない理由をつけて、国県の活動に逆行するとともに、鎌倉市民にとって「First Lady から話を聞ける大きなチャンス」を奪った松尾市長の判断は、到底納得できるものではない。

市長として、政治家として「女性が活躍できるまちかまくら」を市民の皆様と創ってゆく考え方を、議会ではそれなりに答弁はされているが、自らリーダーシップを取り真剣に取り組んで行こうと考えているとは思えない今回の判断について考え方を伺いたい。

3 答弁

ご質問のとおり、先日、女性が活躍できるまちづくりを進めるきっかけとするために、安倍昭恵総理大臣夫人と、市内で活躍する女性との対談の開催をご提案いただきました。折角のご提案であり、実施に向けて前向きに検討をしましたが、内閣総理大臣夫人とはいえ、特定の政党の代表者の夫人を、市としてお招きすることが、市が特定政党を応援していると捉えかねないとの懸念を抱きました。このため、市内部で協議した結果、同様の理由で今回は見送ることとしました。

鎌倉市の様々な行事には、一部議員など政治家の方にもご出席いただいておりますが、特定の政治団体に偏らないよう、市が特定政党を応援していると捉えられない範囲でご出席をお願いしているところです。

また、本市では、女性活躍推進法に定める「市町村推進計画」を策定するとともに、県が結成した「かながわ女性の活躍応援団」の企業とも連携し、本市の女性活躍推進への取り組みについてのPRを行う講演会の実施の検討を行うなど女性の活躍推進に積極的に取り組んでいるところであり、決して国県の考え方に逆行しているとは考えておりません。

女性活躍への応援を語るという点では、数多くの市民が興味を持っていただけるこれ以上の方はおらず、対案はないことは理解しておりますが、今回の「日本国のFirst Ladyからお話を伺う」機会と市の政治的な中立性を保つこととを比較して考えた結果、今回ご提案いただいた対談を市として開催することは見送ることとしました。

しかし、女性の活躍推進は本市における重要な課題であるとは認識しております。このため、今後とも、私自身がリーダーシップを取り、前述の講演会の開催等、市内の事業者や市民に向けて女性活躍の推進を積極的に呼びかけ、女性が活躍できる社会の実現に向けて事業を進めてまいりたいと考えております。秋には、「かながわ女性の活躍応援団」の企業の方をお招きして、市民や市内事業者の方を対象に、先進的な企業における女性の活躍推進の取り組みをご紹介いただく講演会の開催を計画しております。